

問 職員の倫理観やコンプライアンス意識を高めるために、どのような取り組みを行っているか。

答 外部講師によるコンプライアンス研修により組織体制の強化を図るほか、自治研修所や自治大学校への派遣を継続し、資質向上に努める。



教育行政について

問 ICT教育で導入した、1人1台の学習用端末の活用状況とその効果は。

答 市内の小中学校における学習用端末の利用頻度は、県平均を大きく上回っている状況で、積極的な活用がされている。インターネットを利用した授業では、収集した情報のクラス内共有や多角的な視点による情報からの学びにより、思考力や判断力、理解力の向上につながっている。と捉えている。

問 新学習指導要領において、プログラミング教育が必修化とされたが、現状の指導内容はどのようなものか。

答 各小学校での取り組み状況は、算数では5年生の「正多角形をかく手順を考える問題」、6年生の「数の並べかえ方を考える問題」でプログラミング的思考を育む学習が行われているほか、6年生の理科ではプログラミング言語の一つであるスクラッチを使ったプログラム作成などを行っている。

児童の理論的思考力を深める学びの実現に向け、効果的な指導につながるよう対応していく。

質問した項目

- 教育行政について
- コンプライアンスの推進について

戸田 芳孝 議員（鹿山会）

質問時間 30分



録画配信はこちらから

問 昨年の一般質問の答弁で、相指名業者の下請け基準を整備するとしていたが、進捗状況は。

答 鹿角市建設工事元請負・下請関係適正化要綱を全面改正し、相指名業者の下請契約については、原則禁止とした。



質問した項目

- 相指名業者の下請け基準について
- かづの観光物産公社の外部監査指摘事項の改善状況について
- 監査報告書の指摘事項が改善しない件について
- 死亡時の手続きの窓口集約について
- 生涯スポーツとしてのモルックの普及促進について

監査報告書の指摘事項が改善しない件について

問 監査報告書において2年連続で服務管理への指摘があり、「報告に実態が伴っていない」とある。指摘事項への対応と、改善していない要因は。

答 指摘の多くはケアレスミスで、誤りやすい事例などの一問一答を作成し、全庁的な周知を行った。

2年続けての同様の指摘は真摯に受け止める必要がある。職員全体の認識と意識の底

生涯スポーツとしてのモルックの普及促進について

問 フィンランド発祥の新作スポーツ「モルック」は近年人気が急速に拡大している。屋内外で楽しむことができ、幅広い面での活用が期待される。市民への普及について市の考えは。

答 モルックは体力・筋力をあまり必要とせず、屋内外問わず誰でも気軽にできるスポーツで、道具の貸し出しやスポーツ推進委員による指導も可能である。モルックなど、様々な生涯スポーツを通じて地域活動を促進していく。



録画配信はこちらから